

良田地区 古代の層を掘り下げ中!

良田平田遺跡

よしだひらたいせき

碧玉製勾玉出土!



良田平田遺跡（4区）では、これまでに鎌倉時代から室町時代の田んぼの跡（田んぼの区画を表す段差や畦の痕跡など）がみつかっています。

現在は、その下にある古代の水田跡と推測している地層を調査しています。その地層から勾玉が1点出土しました。勾玉の色が濃い緑色をしており、石材は碧玉と推定しています。古代の地層から出土していますが、形態的特徴からみて古墳時代の勾玉と考えます。

この地層の下では、昨年度の調査で平安時代の建物や木簡などの遺物がみつかっています。今年はどんな発見があるのか、ご期待ください。



見つかった勾玉は頭部の破片で、残存する大きさは約2センチです。

良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

袋状鉄斧出土!



これから何が出るか、楽しみだなあ



2本の溝



見つかった袋状鉄斧。向かって上が柄に装着する部分、下が刃先になります。

良田中道遺跡では、ショベルカーで現代の田んぼの土を取り除いたところ、2本の平行する溝（写真左）がみつかりました。わずかに出土した土器から、これらの溝は平安時代終わり頃のものと考えられます。

現在は、その下にある古墳時代～古代の層の掘削を行っているところです。この層からは、保存状態の良い袋状鉄斧（写真右）が出土しました。当時の人が落としたものか、それとも作業していた場所だったのか、今後も慎重に調査していきます。

鳥取西道路の遺跡を掘る!

第39号 2012年7月24日



古墳時代には、新しく登場した竈（かまど）を利用して煮炊きを行っていたと考えられています。

いったいどのような方法で行われていたのでしょうか。

煮炊きを考える

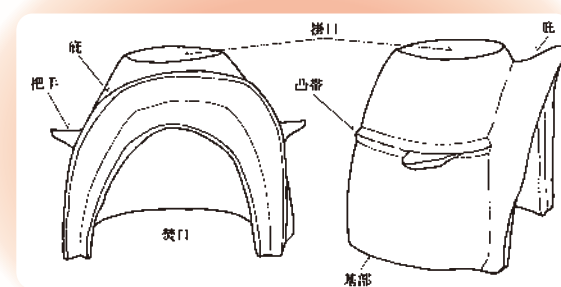
持ち運ぶことができる土製品の竈（かまど）が、古墳時代後期（6世紀後半頃）に山陰地方に現れます。この移動式竈は5世紀頃に朝鮮半島から日本に伝わったと考えられていますが、山陰地方での普及は遅れたようです。

使用方法は簡単で、竈の上部に設けられた穴（掛口）に甕を置き、庇のついた焚口から薪などの燃料を燃やしました。竈を使用することで、甕の底面全体に炎が無駄なく当たるため、煮炊きを効率よく短時間で行うことができました。また、「始めちよろちよろ、中ぱっぱ・・・」といった火の加減調整も容易になったことでしょう。

発掘調査で出土する竈は、割れて破片になっていますが、高温の炎にも耐えられるように分厚く作られているため、薄手に作られている土器の破片とは異なって武骨な印象です。



名和中畝遺跡出土の移動式竈と甕
『年報 2004』2005 を一部改変

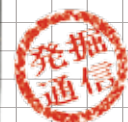


移動式竈（かまど）模式図
『名和中畝遺跡』2005 を一部改変

(財)鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太12番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
kyobun@bz04.plala.or.jp



梅雨も明け、いよいよ夏本番です。
今年の夏も猛暑となりそうで、「熱中症」という言葉が脳裏から離れませんが、そんな中でも発掘調査は着々と進んでいます。
調査の成果は、ホームページや通信でお知らせしますので楽しみに。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき



でいたんぞう
泥炭層は古代のタイムカプセル!?

今回調査する東桂見遺跡のある場所は、奈良時代の中頃（750年代）に東大寺の荘園（注1）「高庭庄」が営まれた場所でした。

その荘園のなかでも倉見と呼ばれた地が、もっとも開発が進んでいた場所だったようです。今回の東桂見遺跡のある桂見地区一帯が倉見にあたることから、調査では奈良時代の田んぼの跡が見つかるかもしれない、という期待が持たれました。

ところが調査の結果、古代の地表面は厚い泥炭層に覆われていることから、水辺の植物が生い茂った環境であることが分かりました。

泥炭とは、水辺の植物が枯れた後に水中に堆積したものです。空気に触れないため、植物の茎や根が腐らずに残っていました。中には植物の種や小さな昆虫の羽も残っているので、当時の自然環境を探ることができます。

この泥炭層からは、古代のまつりの道具である齋串が約10点ほど出土しました。古代の人々はこの未開拓の地にどのような祈りを込めたのでしょうか？

注1) 荘園 … 東大寺が開発した田んぼのこと



調査地遠景（北東から）
調査地は「森林公園とっとり出合いの森」に行く道の西側の田んぼの中です



いぐし
齋串の出土状況



分厚い泥炭層の堆積

古代から中世に堆積した泥炭層（厚さ約80cm）



これが泥炭です！
古代の植物が腐ることなく残っていました



縄文時代の土器が出土！

高住平田遺跡では、縄文時代中期（約5000年前）の遺物を含む地層の掘り下げと、その頃に流れていたとみられる河川の調査を行っています。

出土する土器の多くは、縄目や刻みめによって丁寧に飾られており、縄文人達のこだわりや美意識を感じることができます。



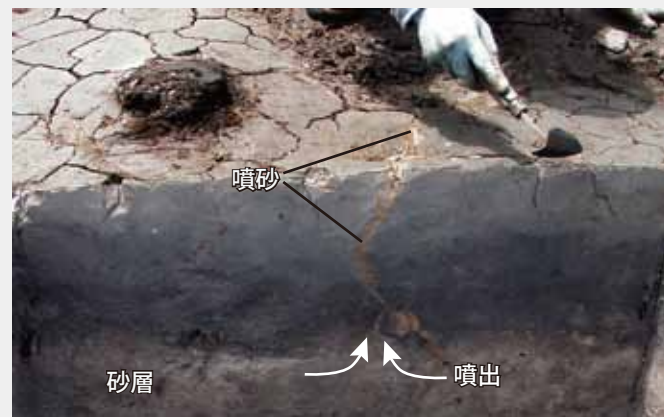
他に、こぶしよりもやや大きめの丸い石が2つ並べて置かれた状況で見つかりました。

周囲には遺構もありませんが、同じ形、大きさの石を2つ並べている状況から、縄文人にとって大事な意味を持つものであったのかもしれない。

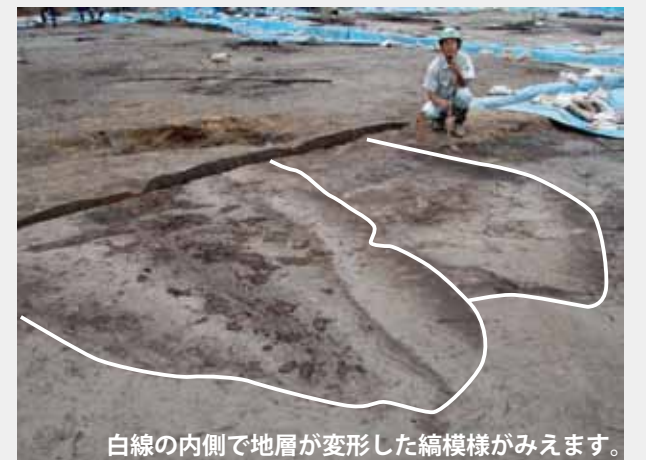
大昔の大地震！

調査中に地震痕跡がいくつか見つかりました。

これらの痕跡は、震度6や7以上の地震が発生した際に形成されると考えられており、大昔に遺跡周辺で大地震が起こっていたことを物語ります。地震の発生時期については、科学的な分析も取り入れながら検討を進めていく予定です。



写真下部の砂層から上の地層をつらぬいて砂が噴出しています。液状化に伴う噴砂（ふんさ）の跡だと考えられます。昨年起こった東日本大震災では、千葉県などで噴砂が発生し、地盤沈下などの被害をもたらしました。



地表に不思議な縞模様（しまもよう）がみえます。これは、本来は水平に堆積しているはずの地層が斜めにゆがんでしまったために、模様のようにみえているものです。地震による強い圧力で地層が変形したのでしょう。



高住平田遺跡

たかすみひらたいせき

